

てんぐ新聞

05.12.No103
発行日 12月5日
発行所 東京都

京五山

茅刈り

はびまる



十月になると祖谷にも霜がおりた、氷が張ったりと冬の知らせが届く、それこそ、県道や国道をいには紅葉すくた木々がまだまだ残っています。
そこで、羊ヶ丘を歩きまわると茅刈りがはびまる。今年も十八日スタート。
計画では、東春にも「いりいり」の屋根を葺き替えることになってはいたが、また一年先になりそう。
それこそ茅刈りは順調にはかどつていいる。今年も、ドイツ、アメリカ、ニージーランドからのボウニア、アセアセ人という国際的茅刈りが、英語やドイツ語がとびかう京五山。

仕事熱心なボウニア、アセアセ一週間泊り込みで刈り続けられている。
鎌研ぎと上手にふるく、本当に頭がさかかります。それに、今年も注目は、上の厚真の「ペラくん」です。毎日、遊ぶ相手がいなくて、自然の中で



いろいろな事が遊びになつていよう。えんげに山を登り、茅の甲を歩きまわるといいます。時に、ペラくんのお尻に入り、一日の最後の仕事、竹で、ワヤン「ヤン」という架線を使ってその茅はこびひびき。
毎回、大仕事を終えて喜んでくれます。言葉は通じませんが、ペラくんの相手をしてくる遊びは、お尻の奥の奥につにりました。疲れもありませんが、目的がはっきりしていけると面白いです。これいりいりという山の茅刈りですが、祖谷の茅刈り、屋根の保存の為には、決してアライグマとは言えないとおもいます。一羽が、茅刈りを保存のスタートです。

大賞 奥祖谷いりの俳句会とコンサート 秋の祭 真中は揺れる吊橋



「あそこにもほらあそこにも冬の色」
「紅葉、極楽と思おう奈落あり」
「揺れる吊橋、秋の祭、真中は揺れる」
「秋の祭、真中は揺れる」
「あそこにもほらあそこにも冬の色」
「紅葉、極楽と思おう奈落あり」
「揺れる吊橋、秋の祭、真中は揺れる」
「秋の祭、真中は揺れる」